

アジア・アパレルものづくりネットワーク

今月末に東京で展示会

アジア・アパレルものづくりネットワーク(AAP)は30日(2月1日)、会員企業を中心とした19(20年秋冬展示会を東京・千駄ヶ谷のオーダー・オブ・メリット・プランニングイベン

トホールで開催する。参加企業は出展11社、協賛スポンサー12社。来場者は商社やアパレルメーカーなど300人超を見込む。今回のテーマは「アジアのア

パレル生産新時代を担うメイド・バイ・ジャパン」。AAP会員のビジネスチャンスを広げ、新規取引先開拓、既存取引先の受注拡大と会員同士の協業による物作りの強化が目的となる。18年度の会員企業は正会員(縫製工場、OEM)相手先ブランドによる生産、二次加工)31社、協力会員(副資材、国際物流)15社、特別協賛会員15社。

展示会では縫い糸から付属、生地まで全てサステイナブル(持続可能な)をテーマに開発した商品を発表する。同時に、会員企業の技術や特徴をメソ、レディースなどの製品と生地、付属を展示し、中国やASEAN(東南アジア諸国連合)の生産拠点と物流サービスも紹介する。また、縫製業のデジタル化への取り組みも提案する。

2019.01.17 繊維ニュース、

サステ製品の展示も

30日から「19秋冬展示会」

アジア・アパレルものづくりネットワーク(AAP)は30日から2月1日まで、東京都渋谷区のアパレルのオーダー・オブ・メリット・プランニング(OM P)イベントホールで「AAP19秋冬展示会」を開く。アジアのアパレル生産を切り開いてきた。会場数は縫製工場を中心とした61社。顧客からコストパフォーマンスが求めら

れ、厳しい状況が続く。パーソナル化も進み、その対応に追い付いていない。ロスを少なくすすでも、デジタル化を進め、適時適品の推進を図るしかない(AAP事務局)と現状を見る。4回目となる今回展示は、縫糸や副資材、生地までサステイナブル(持続可能な)製品(3〜4社)を展示するほか、出展企業がアパレル別に得意とする縫製技術を生かしたサンプルを展示。システム会社のアパイルが画

面上でサンプルを替える試みも披露する。